

第2回 官庁営繕事業における生産性向上技術の導入に関する検討会 議事概要

日 時：平成31年2月19日(火)16:30～18:30
場 所：経済産業省別館 231号会議室

開会
議事

1. 検討会(第1回)の確認(報告事項)
2. 生産性向上技術の選定技術4件の詳細検討報告(報告事項)
3. 中間報告(案)と手引きの骨子(案)(審議事項)
4. 今後の予定(報告事項)

閉会

委員出席者：大竹亮委員、蟹澤宏剛委員(座長)、木谷宗一委員、黒木正郎委員、
高橋健二委員、田島清至委員、山本治委員
行政側出席者：吉野裕宏整備課長、平田哲人施設評価室長、
施設評価室(事務局)

<議事概要>

●委員、△行政側・事務局

開会、座長の挨拶

・蟹沢座長より挨拶。

議事1. 検討会(第1回)の確認(報告事項) 及び

議事2. 生産性向上技術の選定技術4件の詳細検討報告(報告事項)

- 場合によっては在来工法の方がコスト面で有利になる場合もあり、時期や地域といった施工条件を鑑みて総合的に判断する必要がある。また、二次部材のサイトPCaに言及されているが、PCaは本来躯体で採用することが効果的である。全てをPCa化すると金額増加に繋がる可能性が高いが、適材適所をPCa化することを検討していただきたい。
- サイトPCaを推し進めるためには、部材断面の標準化などに取り組まなければならない。また、サイトPCaを活かせるか否かは建設現場の条件により異なるため、様々な条件の施工現場や最新の技術など実態をしっかりと調査する必要がある。次年度の検討では現場の最新の実態を把握する機会を作るなどするとよい。
- 床コンクリート直均し仕上げロボットを効果的に用いるためには、計画段階で段差や障害物をなくす計画としていただくことが非常に重要である。
- 新しい技術を使用しなくても、断面を統一化したり、役物を減らしたりすることでも生産性を上げることができるのではないかと。
- 建築と設備をきっちりと分ける施工が一般的だが、これからはそれらを的確に融合して生産性を向上させていく必要がある。
- 目新しい技術や不慣れな技術については、中小企業として導入が難しい側面があるため、技術の浸透に当たっては検討手順の策定や標準化などをしてもらう必要があるのではないかと。
- PCa工法の利点を最大限発揮するためには、工法の特徴やルールをしっかりと定め、周知する必要がある。

議事3. 中間報告(案)と手引きの骨子(案)(審議事項)

- 政府の政策として掲げている「2025年までに生産性を2割向上させる」という目標を達成するにあたり、その指標を定める必要がある。
- 政府が示した2割とはいわゆる労働生産性であって、マクロな視点のものだと思っている。本検討会で検討することはもっと技術的なものとなっており、その帰結としてマクロな生産性も上がるのではないかと。

- 生産性の向上という定義について、一定割合以上の性能や品質の向上も考慮してはどうか。また、コストを検討するにあたってはライフサイクルコストを検討対象に含めることも必要ではないか。
- 一部の技術や資機材など、誰が保有するかといった観点も、導入手法を応用させるという観点からは必要になるのではないか。また、5Gなどほんの数年前に実現する技術により建設現場が劇的に変わる要素も含んでいると予想されるため、数年先を見込んで提案していくことが望ましい。
- 電子小黑板や情報共有システムなど建設現場における手戻りをなくすなどのマイナス要因を排除するという観点の生産性向上についても検討対象とすることが望ましいのではないか。
- 試験・測定のICT化や情報の見える化などから収集・蓄積されるビッグデータの利活用がのぞましい。
- 中小企業において導入途上の技術については、導入の促進を図るためのインセンティブ手法も検討の対象としていただきたい。

議事 4. 今後の予定(報告事項)

- ・次年度、事務局より改めて連絡する。

閉会

△本日の議論を踏まえ一度事務局で整理・検討し、今後の進め方を含め座長と相談しながら進めて参りたい。

以上